

# 平成20年3月期 決算説明資料

株式会社ディーエムエス





## 平成20年3月期 総括

### <トピックス>

平成20年3月期において当社は、業務センターを中核とした生産体制の増強と効率化により、宛名データ処理・出力業務やフィルムラッピングをはじめとしたメーリングサービス業務の内製化を推進するとともに、既存顧客との取引拡大や提案型営業による新規顧客開拓に努めてまいりました。また、「プライバシーマーク」「ISMS」の認証取得を維持し、個人情報保護におけるマネジメントシステムを一層強化することで、サービスと情報セキュリティの両面から顧客満足を追求いたしました。

### <連結業績>

「売上高」は前期比1.7%の増収となりました。  
「利益」につきましては、売上の増加や内製化の推進に努めたことなどにより営業利益が前期比11.3%、経常利益が前期比18.2%とそれぞれ増益となり、また当期純利益は税務上の繰越欠損金を加えたことなどにより236.9%の増益となりました



## 平成20年3月期 経営成績

### 個別

売上高	18,236百万円	(前年同期比1.6%増)
経常利益	848百万円	(前年同期比17.7%増)
当期純利益	1,618百万円	(前年同期比239.2%増)

### 連結

売上高	18,532百万円	(前年同期比1.7%増)
経常利益	857百万円	(前年同期比18.2%増)
当期純利益	1,623百万円	(前年同期比236.9%増)

<連結子会社2社> 「株式会社デック」 「東京セールス・プロデュース株式会社」

# 損益計算書

## 【個別】

(単位:百万円)

	前 期	当 期	増 減
売上高	17,945	18,236	290
売上原価	15,895	15,984	88
売上総利益	2,049	2,251	201
販売費及び一般管理費	1,285	1,407	122
営業利益	764	844	79
営業外収益	54	94	40
営業外費用	97	90	△ 6
経常利益	721	848	127
特別利益	113	50	△ 63
特別損失	3	52	49
税引前当期純利益	831	846	15
法人税, 住民税及び事業税	279	7	△ 272
過年度法人税等	—	15	15
法人税等調整額	74	△ 794	△ 868
当期純利益	477	1,618	1,140

## 【連結】

(単位:百万円)

	前 期	当 期	増 減
売上高	18,215	18,532	317
売上原価	16,129	16,236	107
売上総利益	2,086	2,296	210
販売費及び一般管理費	1,320	1,444	123
営業利益	765	851	86
営業外収益	57	96	38
営業外費用	97	90	△ 6
経常利益	725	857	132
特別利益	116	50	△ 66
特別損失	3	52	49
税金等調整前当期純利益	838	854	16
法人税, 住民税及び事業税	281	9	△ 271
過年度法人税等	—	15	15
法人税等調整額	75	△ 793	△ 868
当期純利益	482	1,623	1,141

# 貸借対照表

## 【個別】

(単位:百万円)

	前期	当期	増減
流動資産	5,813	6,925	1,112
固定資産	6,989	6,451	△ 538
資産合計	12,802	13,376	573
流動負債	3,860	3,646	△ 214
固定負債	3,851	3,350	△ 500
負債合計	7,711	6,997	△ 714
株主資本	8,478	7,068	△ 1,410
評価・換算差額等	△ 3,387	△ 689	△ 2,698
純資産合計	5,090	6,378	1,288
負債純資産合計	12,802	13,376	573

## 【連結】

(単位:百万円)

	前期	当期	増減
流動資産	6,006	7,132	1,126
固定資産	6,920	6,381	△ 538
資産合計	12,926	13,513	587
流動負債	3,890	3,684	△ 206
固定負債	3,851	3,350	△ 500
負債合計	7,741	7,035	△ 706
株主資本	8,572	7,167	△ 1,404
評価・換算差額等	△ 3,387	△ 689	2,698
純資産合計	5,184	6,478	1,293
負債純資産合計	12,926	13,513	587



# キャッシュ・フロー計算書（連結）

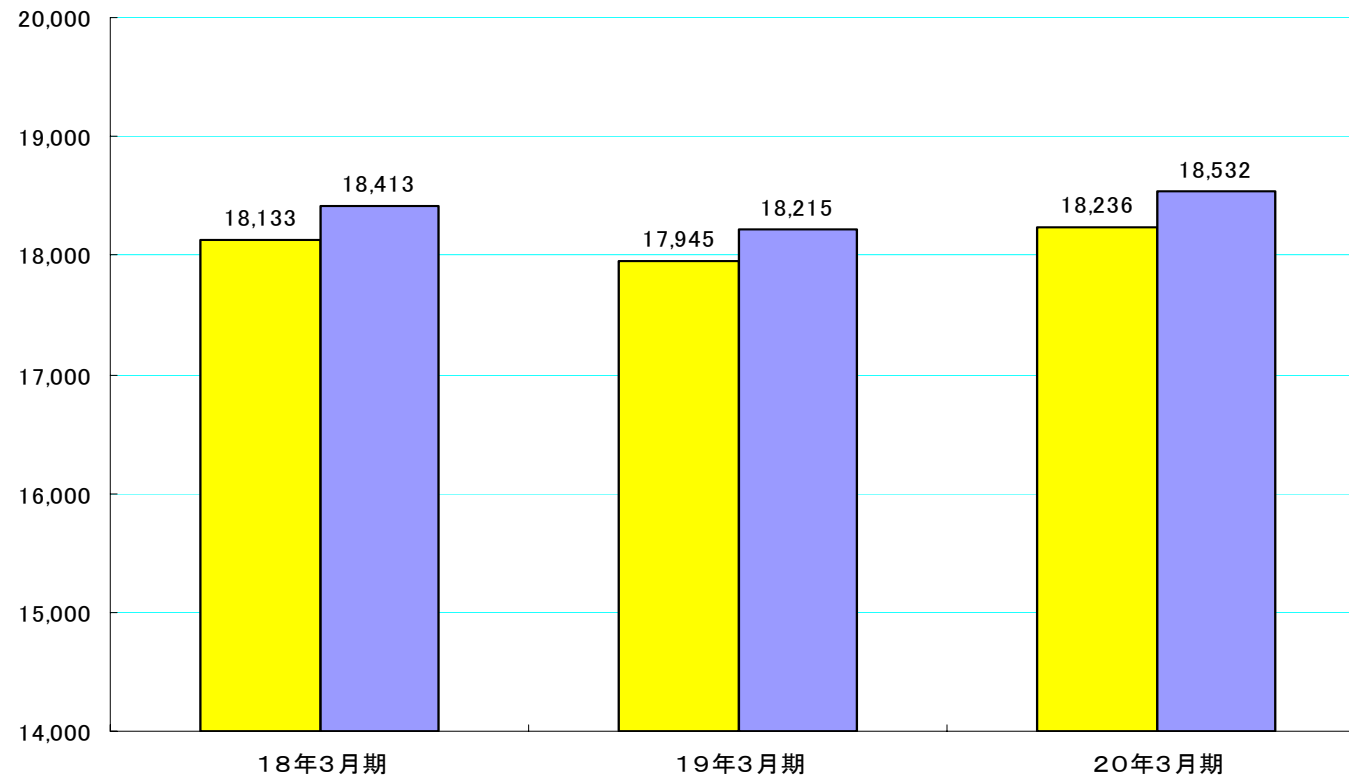
（単位：百万円）

	18年3月期	19年3月期	20年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	809	86	1,094
投資活動によるキャッシュ・フロー	227	△ 156	△ 311
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 768	△ 461	△ 531
現金および現金同等物の増減額（減少：△）	267	△ 530	252
現金および現金同等物の期首残高	1,753	2,021	1,490
現金および現金同等物の期末残高	2,021	1,490	1,742

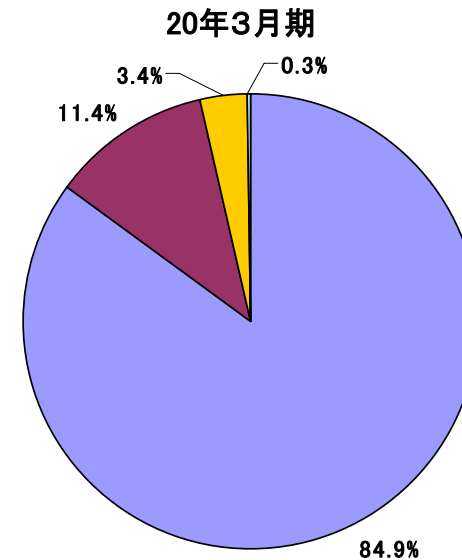
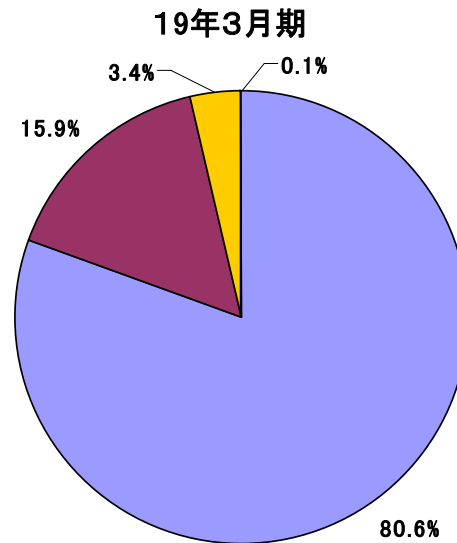
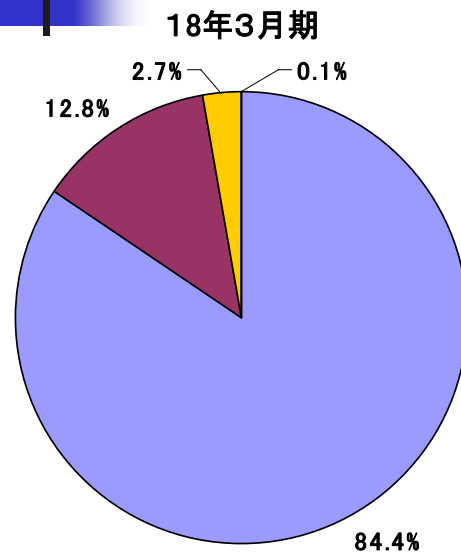
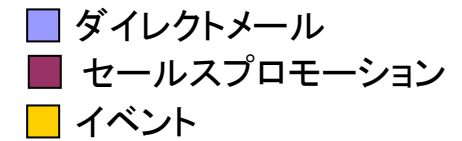
# 売上高の推移

■ 個別  
■ 連結

(百万円)



# セグメント別売上高（連結）



(単位: 百万円)

	18年3月期	19年3月期	20年3月期
ダイレクトメール	15,543	14,682	15,736
セールスプロモーション	2,362	2,894	2,109
イベント	498	625	636
その他	9	14	49
合計	18,413	18,215	18,532

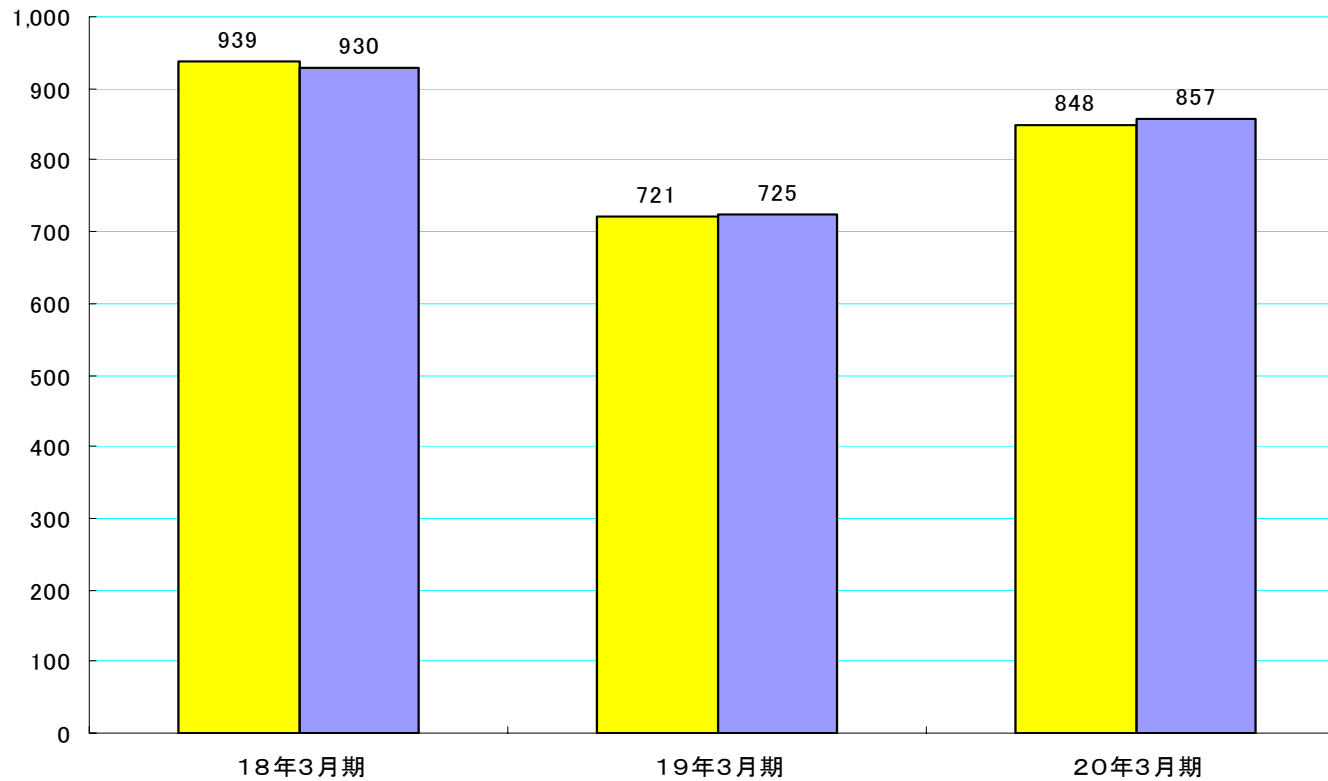
(注) 19年3月期連結会計年度から、事業の種類を集計方法を業務の機能別アプローチにより詳細に行えるように見直しております。  
 なお、18年3月期連結会計年度の数値は、変更した事業の種類を集計方法によって算出しております。  
 上記事項は事業区分の方法の変更には該当いたしません。



# 経常利益の推移

■ 個別  
■ 連結

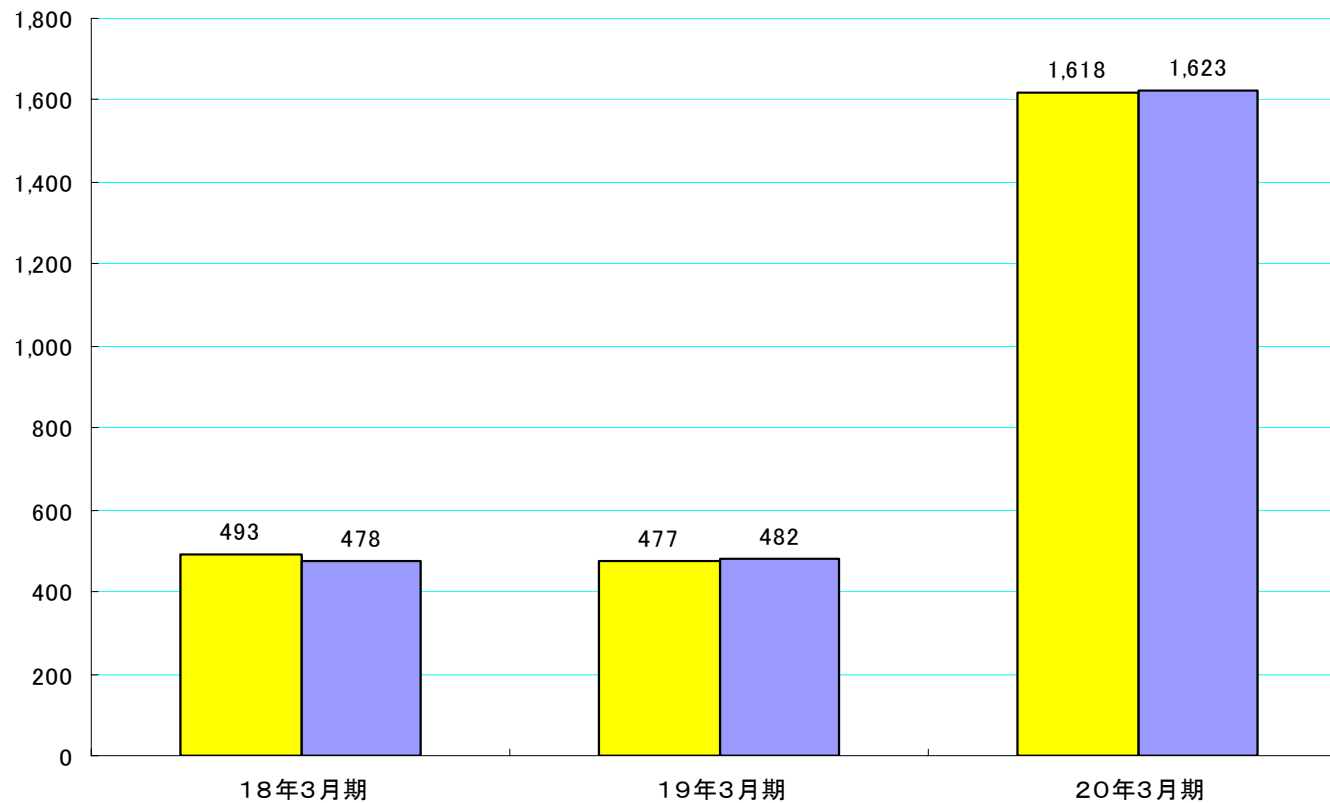
(百万円)



# 当期純利益の推移

■ 個別  
■ 連結

(百万円)





## 経営の基本方針

---

『株主には利益還元で奉仕を』

『顧客にはニーズにあった質のよいサービスを』

『社員には幸せで豊かなくらしを』

『社会には貢献を』



# 中長期的な経営戦略

企業と消費者の双方向の情報交換を実現する  
ダイレクトコミュニケーションの先進企業として

- 業務センターを中核とした生産体制の効率化と内製化促進
- 最新IT技術を駆使した各種機能の拡張と高度化によるトータルサービスの充実
- 新商品開発や提携戦略による業務領域の拡張と競争力の向上
- 汎用性を高めた情報処理および物流加工運営システムを展開しての周辺業務領域への進出
- 個人情報を中心とする機密情報管理の徹底

などを主要テーマとし、業界先進企業にふさわしい強固な収益基盤を構築する。



## 平成21年3月期 業績予想

### 個別

売上高	18,500百万円	(前期比1.4%増)
経常利益	700百万円	(前期比17.5%減)
当期純利益	400百万円	(前期比75.3%減)
1株当たり年間配当金	20円00銭	(前期と同額)

### 連結

売上高	18,800百万円	(前期比1.4%増)
経常利益	710百万円	(前期比17.2%減)
当期純利益	410百万円	(前期比74.7%減)



# 会社の対処すべき課題

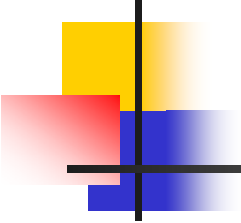
## 当社を取り巻く環境

- 資源の高騰や円高の影響により企業収益の減速が懸念される。
- 顧客企業において、自社のデータベースに基づき消費者の志向特性に応じたきめ細かいマーケティング活動を重視する傾向が強くなっている。
- ✿ 顧客からの品質・価格・納期の要求水準が大幅にアップ。
- ✿ 個人情報流出リスクに対し、万全な保護施策の実施を要請。



## 1. 最高レベルのサービス提供と内製強化

“ディーエムエス業務センター”（さいたま市）を中核に、生産能力強化と生産性向上を強力に推進しており、「品質・価格・納期・情報管理」の面で、業界最高レベルのサービスを追求すると同時に、個人情報流出リスクに対処するため、業務センターでの内製化を推進しており、生産体制と安全性の両面から、名実ともに「ワンストップ・サービス」が実現できることで、業容の拡大と業績の向上に大きく寄与するものと考えております。



## 2. 周辺事業への進出

当社が誇るトータルサービスは、「高度な情報処理システムに支えられた最先端の物流加工業」として顧客の要望にお応えしております。今後はこれらの様々な機能を複合的かつ発展的に活用し、ビジネスチャンスを拡大するべく、周辺業務領域の拡張と進出に向け、各種施策を検討してまいります。





### 3. CRM需要への対応

顧客企業のマーケティング戦略において、CRM（消費者との長期的な関係を築く手法）が重要視され、消費者に最適な情報を送るための様々な施策が実施されております。こうした状況において、当社は、情報印刷分野における業務提携や自動選択封入・フィルムラッピング機、配送コストにおけるスケールメリットなどの有力リソースの活用度をさらに高めるとともに、資料請求対応やポイントサービス事務局など対消費者窓口のノウハウを生かし、顧客のCRMの実践を支援することで、顧客との長期的な取引による収益の確保と拡大を図ってまいります。



## 4. 個人情報の保護

当社は、個人情報保護問題の先駆者として、平成11年に「プライバシーマーク」を取得し、平成17年に「ISMS」の認証を取得しております。業務センターにおいては、5段階のゾーンニング管理、非接触ICカードによる個人単位での入退出制限を実施し、全社ベースで最新技術によるネットワークへの不正アクセス防止と内部アクセス制限を強化するなど個人情報の流出防止を図っております。また、従業員のモラルアップと管理策の徹底のため、全社を対象にした教育研修を継続的に実施しております。今後もこの取り組みを維持・強化することで、さらに顧客企業の信頼を深め、受注の増強を図るとともに、消費者保護に努めてまいります。

※ISMS適用範囲: 管理本部、営業本部、プロモーション本部、業務本部。

業績見通しにつきましては、その目標達成に向けて事業を展開してまいりますが、経済状況や市場動向の変化など様々な要因により変動する可能性があります。

【本件資料に関するお問い合わせ】

株式会社ディーエムエス  
(社長室)  
TEL:03-6859-2961(代)